

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	三谷 温
主な担当科目	ピアノアンサンブル I ①,ピアノ指導法特論,演奏解釈,演奏解釈法,室内楽特別演習①,室内楽特別演習②,実技個人レッスン[ピアノ I ①,ピアノ I ②,ピアノ I ③,ピアノ実技 I ①,ピアノ実技 I ②,ピアノ実技 I ③,ピアノ実技④,音楽芸術表現実技(ピアノ)①,博士特別表現研究①]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	シラバスに準拠し、且つ学生各々の個性に合わせた指導を行う。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、学生及び自らの身体及び精神の健康を保つことにも十分に留意する。
2022年の教育に関する自己評価	目標は概ね達成できた。90パーセント以上とした理由は、昨年度と同様に、各学生・授業に関する準備・研究等の量(時間)と質(集中するための体調管理など)の向上に務めた結果、レッスン・授業の内容・密度が充実していたという自覚を持てたことによる。
2022年のFD活動に関する自己評価	所属する鍵盤楽器学内組織FD研修会の他、関係するFD委員会に全て出席した。大学全体の取り組み、問題点などを総合的に理解するようにつとめた。
授業改善のために取り入れた研修内容	多様な学生に配慮した指導について。コースの特徴、カリキュラム・シラバスについて。

科目名－クラス名

ピアノアンサンブルⅠ①

曜日時限

水 1時限

担当教員

三谷 温

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
演習	1～	通年	2		0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

<室内楽>ベートーヴェンのピアノとヴァイオリンのためのソナタなど、弦楽器とピアノの室内楽曲を教材として取り上げる。はじめに楽曲分析や作曲の背景などを理解する。その後、ピアノパートのレッスン、更に弦楽器奏者との演習を通して、アンサンブルの基礎力を身につけていく。グループごとの研究発表なども行う。<声楽>声楽が入るアンサンブルの基本を修得する。課題としてイタリア歌曲、モーツァルトの歌曲とオペラアリア、イタリアオペラのアリア、ドイツ歌曲を取り上げる。履修学生数によっては、履修者を2グループに分けて、前期・後期の内容を入れ替えて授業を運用することがある。履修希望者は、第1回目のガイダンスに必ず出席すること。

学修成果

室内楽、声楽の両面からアンサンブルについての基礎知識を学修・理解し、ピアニストにとって欠くことのできないアンサンブルの能力を、実際の演習を通して身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス。室内楽の授業展開について説明する。楽曲ごとに学生数名によるグループを作る。
- 第2回 ベートーヴェンのピアノと弦楽器のための室内楽曲に関する概説
- 第3回 作品12・1,12・2,12-3に関して、グループ単位で分析と演奏上の留意点、成立の背景について研究し発表する。尚、履修者数によって、対象作品数を増やすこともある。
- 第4回 作品23及び24に関して、グループ単位で分析と演奏上の留意点、成立の背景について研究し発表する。履修者数によって、対象作品数を増やすこともある。
- 第5回 各課題曲のピアノパートに関する講義・レッスン（概要）
- 第6回 各課題曲のピアノパートに関する講義・レッスン（特に前半）
- 第7回 各課題曲のピアノパートに関する講義・レッスン（特に後半）
- 第8回 各課題曲のピアノパートに関する講義・レッスン（まとめ）
- 第9回 弦楽器奏者との演習と講義(弦楽器についての理解)
- 第10回 弦楽器奏者との演習と講義（アンサンブル概説）
- 第11回 弦楽器奏者との演習と講義（演奏法の概説）
- 第12回 弦楽器奏者の演習と講義（楽器学的解説）
- 第13回 弦楽器奏者との演習と講義（楽器学的解説を生かす演奏について）
- 第14回 弦楽器奏者との演習と講義（まとめ）
- 第15回 成果発表
- 第16回 アンサンブルをする為の準備・心構えについて。授業展開についての説明。
- 第17回 イタリア古典歌曲。ピアノパートの演奏、歌詞の朗読、意味の把握、歌唱の試み。
- 第18回 イタリア古典歌曲。歌手との演習
- 第19回 イタリア歌曲。ピアノパートの演奏、歌詞の朗読、意味の把握。作曲家、詩人に関する考察。
- 第20回 イタリア歌曲。歌手との演習
- 第21回 モーツァルトの作品。ピアノパートの演奏、歌詞の朗読、意味の把握。作曲家、詩人に関する考察。オペラアリアにおけるオーケストレーションに関する考察。演奏法の研究。
- 第22回 モーツァルトの作品。歌手との演習
- 第23回 日本歌曲。ピアノパートの演奏、歌詞の朗読、意味の把握、歌唱の試み。作曲家、詩人に関する考察。
- 第24回 日本歌曲。歌手との演習
- 第25回 イタリアオペラのアリア。ピアノパートの演奏、歌詞の朗読、意味の把握。作曲家に関する考察。オペラの粗筋の理解（アリアがどのような場面で歌われるかの認識）。オーケストレーションに関する考察。演奏法の研究。
- 第26回 イタリアオペラのアリア。歌手との演習
- 第27回 ドイツ歌曲。ピアノパートの演奏、歌詞の朗読、意味の把握。作曲家、詩人に関する考察。ピアノ作品との関連性に関する考察。

第28回 ドイツ歌曲。歌手との演習

第29回 履修曲目に関する総括

第30回 成果発表

履修上の注意

自分に与えられた課題曲だけでなく、他の学生に割り当てられた作品も必ず学修しておくこと。予習、復習をしっかりと行うこと。楽譜に、運指、注意事項等記入するために、濃い鉛筆と、消しゴムを持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な読譜・練習をして（週に60分程度）、受講の準備をしっかりとすること。

教科書・参考書

<室内楽> ベートーヴェン「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ集〈I〉」（ヘンレ版）<声 楽> 授業内で具体的な指示を与える

科目名－クラス名

ピアノ指導法特論

曜日時限

金 4時限

担当教員

三谷 温

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
講義	3～	通年	4	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や教育には自分自身が反映されるので、3年次ではさらに幅広い教養を身につけることを目的にこの講義が設置されている。教養豊かなピアノ指導者・音楽家、社会人になることを目指す。将来キャリアを築いていくためには、自身の専門分野のみならず幅広い教養・知識を身につけることが大変重要である。講義内容によりそれぞれの専門分野の講師が担当する。学外からも講師を招聘する。

学修成果

音楽に関わる様々な視点から学び、考え、体験することにより、幅広い教養を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 4月8日／三谷温『ガイダンス』
- 第2回 4月15日／柴田龍一『時代や地域による演奏様式の違いについて①(指揮者編)』
- 第3回 4月22日／柴田龍一『時代や地域による演奏様式の違いについて②(ピアニスト編)』
- 第4回 4月29日／大輪公彦『音と映像で見るピアノ演奏史』
- 第5回 5月6日／浅野菜生子『アンサンブルピアニストに求められること①(基礎編)』
- 第6回 5月13日／浅野菜生子『アンサンブルピアニストに求められること②(応用編)』
- 第7回 5月20日／浅野菜生子『アンサンブルピアニストに求められること③(実践編)』
- 第8回 5月27日／尾崎有飛『メンデルスゾーンやシューマンの作品を中心とした、作曲家の生涯から作品解釈・演奏表現までの繋がりについて』
- 第9回 6月3日／尾崎有飛『J. S. Bachの音楽を中心とした装飾音・指使いについての考察』
- 第10回 6月10日／後藤正孝『ピアノ音楽における編曲作品の考察①(リストを中心に)』
- 第11回 6月17日／後藤正孝『ピアノ音楽における編曲作品の考察②(ブゾーニ、ラフマニノフから現代のピアニストまで)』
- 第12回 6月24日／三ツ堀清志『人間と音楽と教育との関わりについて～感性を育てる音楽指導～』(仮) 『今、求められている音楽教育と～学習指導要領から考える～』(仮)
- 第13回 7月1日／聴講必修→学内演奏会・講座の聴講(対象:アンサンブルコンクール、コンチェルト定期演奏会、招聘教授による講座)。具体的には第1回目のガイダンスで説明する。
- 第14回 7月8日／飯田佐恵『北欧のピアノ音楽①グリーグとシベリウス』
- 第15回 7月15日／飯田佐恵『北欧のピアノ音楽②20世紀の作品を中心に』
- 第16回 9月9日／江口文子・後藤正孝『ピアノを楽しく弾くために1(基礎編)』
- 第17回 9月16日／入江一雄 『ロシア音楽の発展について～19世紀以降のピアノ作品を通して～』
- 第18回 9月23日／川染雅嗣『ショパンの作品と演奏法①～バラードとスケルツォについて～』
- 第19回 9月30日／川染雅嗣『ショパンの作品と演奏法②～マズルカとゴロネーズについて～』
- 第20回 10月7日／聴講必修→学内演奏会・講座の聴講(対象:アンサンブルコンクール、コンチェルト定期演奏会、招聘教授による講座)。具体的には第1回目のガイダンスで説明する。
- 第21回 10月14日／江口文子・後藤正孝『ピアノを楽しく弾くために2(応用編)』
- 第22回 10月21日／酒井健太郎『日本におけるクラシック音楽の歴史』
- 第23回 10月28日／野本由紀夫『ソナチネアルバムを極める(基礎編)』
- 第24回 11月11日／野本由紀夫『ソナチネアルバムを極める応用編』
- 第25回 【日程変更】第25・26回※12月15日(木) 16:20～19:30/酒井直隆『ピアニストの手の障害と奏法』2コマ連続
- 第26回 ※振替
- 第27回 12月9日／柴田龍一『音楽批評について～ピアニストにとって必要なこと～』
- 第28回 12月16日／三谷温『ベートーヴェンのピアノソナタについて』
- 第29回 1月6日／林田枝実『フランス近代音楽(ピアノ作品)の演奏解釈～ドビュッシー・ラヴェルなどのフランス近代音楽作品の表現について考察する。』
- 第30回 1月20日／林田枝実『フランス近代音楽の演奏解釈～他文化からの影響、融合を演奏者はどう捉えて伝えていくのか。』

履修上の注意

原則として金曜日IV限に行うが、外部講師の講義などにおいては、他の曜日・時限に授業を振り替えることがあるので注意すること。振り替えにより、他の授業との重複が生じる場合は、アーカイブでの対応など指示をするので、事前に申し出ること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回受講後、60分程度かけて講義内容をまとめておくこと。

教科書・参考書

その都度、授業内およびポータルサイトなどで指示をする。

科目名－クラス名

演奏解釈

曜日時限

金 4時限

担当教員

三谷 温

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	2～	通年	4	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や教育には自分自身が反映されるので、幅広い教養を身につけることを目的にこの講義が設置されている。教養豊かなピアノ指導者・音楽家、社会人になることを目指す。将来キャリアを築いていくためには、自身の専門分野のみならず幅広い教養・知識を身につけることが大変重要である。講義内容によりそれぞれの専門分野の講師が担当する。学外からも講師を招聘する。

学修成果

音楽に関わる様々な視点から学び、考え、体験することにより、幅広い教養を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 4月8日／三谷温『ガイダンス』
- 第2回 4月15日／柴田龍一『時代や地域による演奏様式の違いについて①（指揮者編）』
- 第3回 4月22日／柴田龍一『時代や地域による演奏様式の違いについて②(ピアニスト編)』
- 第4回 4月29日／大輪公彦『音と映像で見るピアノ演奏史』
- 第5回 5月6日／浅野菜生子『アンサンブルピアニストに求められること①（基礎編）』浅野菜生子『アンサンブルピアニストに求められること②（応用編）』
- 第6回 5月13日／浅野菜生子『アンサンブルピアニストに求められること②（応用編）』
- 第7回 5月20日／浅野菜生子『アンサンブルピアニストに求められること③（実践編）』
- 第8回 5月27日／尾崎有飛『メンデルスゾーンやシューマンの作品を中心とした、作曲家の生涯から作品解釈・演奏表現までの繋がりについて』
- 第9回 6月3日／尾崎有飛『J. S. Bachの音楽を中心とした装飾音・指使いについての考察』
- 第10回 6月10日／後藤正孝『ピアノ音楽における編曲作品の考察①（リストを中心に）』
- 第11回 6月17日／後藤正孝『ピアノ音楽における編曲作品の考察②（プゾーニ、ラフマニノフから現代のピアニストまで）』
- 第12回 6月24日／三ツ堀清志『人間と音楽と教育との関わりについて～感性を育てる音楽指導～』（仮）『今、求められている音楽教育と～学習指導要領から考える～』（仮）
- 第13回 7月1日／調整中
- 第14回 7月8日／飯田佐恵『北欧のピアノ音楽①グリーグとシベリウス』
- 第15回 7月15日／飯田佐恵『北欧のピアノ音楽②20世紀の作品を中心に』
- 第16回 9月9日／聴講必修→学内演奏会・講座の聴講（対象：アンサンブルコンクール、コンチェルト定期演奏会、招聘教授による講座）。具体的には第1回目のガイダンスで説明する。
- 第17回 9月16日／聴講必修→学内演奏会・講座の聴講（対象：アンサンブルコンクール、コンチェルト定期演奏会、招聘教授による講座）。具体的には第1回目のガイダンスで説明する。
- 第18回 9月23日／川染雅嗣『ショパンの作品と演奏法①～バラードとスケルツォについて～』
- 第19回 9月30日／川染雅嗣『ショパンの作品と演奏法②～マズルカとポロネーズについて～』
- 第20回 10月7日／江口文子・後藤正孝『ピアノを楽しく弾くために1(基礎編)』
- 第21回 10月14日／江口文子・後藤正孝『ピアノを楽しく弾くために2(応用編)』
- 第22回 10月21日／酒井健太郎『日本におけるクラシック音楽の歴史』
- 第23回 10月28日／野本由紀夫『ソナチネアルバムを極める(基礎編)』
- 第24回 11月11日／野本由紀夫『ソナチネアルバムを極める応用編)』
- 第25回 第25・26回※12月1日（木）16:20～19:30／酒井直隆『ピアニストの手の障害と奏法』2コマ連続
- 第26回 ※振替
- 第27回 12月9日／三谷温『ベートーヴェンのピアノソナタについて』
- 第28回 12月16日／柴田龍一『音楽批評について～ピアニストにとって必要なこと～』
- 第29回 1月6日／林田枝実『フランス近代音楽(ピアノ作品)の演奏解釈～ドビュッシー・ラヴェルなどのフランス近代音楽作品の表現について考察する。』
- 第30回 1月20日／林田枝実『フランス近代音楽の演奏解釈～他文化からの影響、融合を演奏者はどう捉えて伝えていくのか。』

履修上の注意

原則として金曜日IV限に行うが、外部講師の講義などにおいては、他の曜日・時限に授業を振り替えることがあるので注意すること。振り替えにより、他の授業との重複が生じる場合は、アーカイブでの対応など指示をするので、事前に申し出ること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回受講後、60分程度かけて講義内容をまとめておくこと。

教科書・参考書

その都度、授業内およびポータルサイトなどで指示をする。

科目名－クラス名

室内楽特別演習②

曜日時限

金 3時限

担当教員

三谷 温

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	2～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	0	0	100	

教育到達目標と概要

弦・管・打楽器によるアンサンブル及びピアノと弦・管・打楽器とのアンサンブルや、電子オルガンを含むアンサンブルなど様々な形態の室内楽について、幅広く包括的に研究することを目的としている。授業内では演奏上の諸問題について、教員を交えたディスカッションも適宜行っていく。

学修成果

自己の専攻楽器のみならず、様々な楽器に特有の演奏法や表現法も合わせて研究し、アンサンブルにおける高度な演奏表現能力を養うことができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス（オリエンテーション期間中に配付した曲目等に関するアンケートの回収）
第2回	研究対象楽曲の決定、研究対象楽曲成立の時代的背景に関して
第3回	研究対象曲の分析（基礎編）
第4回	研究対象曲の分析（応用編）
第5回	編成による演奏表現法の違いについて（基礎編）
第6回	編成による演奏表現法の違いについて（応用編）
第7回	楽器毎の演奏表現法の特徴について（基礎編）
第8回	楽器毎の演奏表現法の特徴について（応用編）
第9回	客員教授（管楽器）による公開レッスン（日程調整中）
第10回	客員教授（ピアノ）による公開レッスン（日程調整中）
第11回	客員教授（管楽器）による公開レッスン（日程調整中）
第12回	客員教授（弦楽器）による公開レッスン（日程調整中）
第13回	成果発表（二重奏）
第14回	成果発表（三重奏）
第15回	成果発表（四重奏以上）、後期研究対象楽曲の決定
第16回	ディスカッション（演奏表現法、レパートリーに関して他）
第17回	研究対象曲の分析（基礎編）
第18回	研究対象曲の分析（応用編）
第19回	編成による演奏表現法の違いについて（基礎編）
第20回	編成による演奏表現法の違いについて（応用編）
第21回	楽器毎の演奏表現法の特徴について（基礎編）
第22回	楽器毎の演奏表現法の特徴について（応用編）
第23回	楽器毎の演奏表現法の特徴について（展開編）
第24回	客員教授（管楽器）による公開レッスン（日程調整中）
第25回	客員教授（ピアノ）による公開レッスン（日程調整中）
第26回	客員教授（管楽器）による公開レッスン（日程調整中）
第27回	客員教授（弦楽器）による公開レッスン（日程調整中）
第28回	成果発表（二重奏）
第29回	成果発表（三重奏）
第30回	成果発表（四重奏以上）

履修上の注意

授業で取り上げる作品に関する資料（楽譜・視聴覚資料等）を事前に用意して授業に臨むこと。欠席者にはレポートを課す。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

演奏する作品に関する研究レポートを、演奏者それぞれが異なる観点から執筆し、グループ毎にまとめる。

■ 教科書・参考書

特に定めず必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識
第3回	指の強化トレーニング方法
第4回	敏捷性トレーニング方法
第5回	エチュード作品奏法
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（原典版・校訂版、関連文献・資料について学修する）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科ピアノコースの週1回60分主科実技科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。具体的には、1年次では基礎的演奏技術を習得、2年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	様々なテクニック修得に基づく基礎知識
第3回	エチュード試験に向けて（作品内容を理解する）
第4回	エチュード試験に向けて（指の強化トレーニング方法）
第5回	エチュード試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第6回	エチュード試験に向けて（音楽表現を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを修得する）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探るとともに、演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得し、自己の演奏を検証する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分練習をし準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識
第3回	指の強化トレーニング方法
第4回	敏捷性トレーニング方法
第5回	エチュード作品奏法
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（原典版・校訂版、関連文献・資料について学修する）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科ピアノコースの週1回60分主科実技科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。具体的には、1年次では基礎的演奏技術を習得、2年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	様々なテクニック修得に基づく基礎知識
第3回	エチュード試験に向けて（作品内容を理解する）
第4回	エチュード試験に向けて（指の強化トレーニング方法）
第5回	エチュード試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第6回	エチュード試験に向けて（音楽表現を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを修得する）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探るとともに、演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	スケールの奏法について
第17回	音楽的表現に沿った脱力奏法について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得し、自己の演奏を検証する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分練習をし準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科ピアノコースの週1回60分主科実技科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。具体的には、1年次では基礎的演奏技術を習得、2年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第2回 様々なテクニック修得に基づく基礎知識
- 第3回 エチュード試験に向けて（作品内容を理解する）
- 第4回 エチュード試験に向けて（指の強化トレーニング方法）
- 第5回 エチュード試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
- 第6回 エチュード試験に向けて（音楽表現を学ぶ）
- 第7回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第8回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析、楽曲内容を理解する）
- 第9回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを学ぶ）
- 第10回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（古典派における演奏スタイルを修得する）
- 第11回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第12回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探るとともに、演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
- 第14回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 スケールの奏法について
- 第17回 音楽的表現に沿った脱力奏法について
- 第18回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
- 第19回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第22回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（ロマン派における演奏スタイル等を修得する）
- 第25回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第27回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
- 第29回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得し、自己の演奏を検証する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分練習をし準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験						
実技・実習	2～	通年	6	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第2回 音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
- 第3回 スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
- 第4回 スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
- 第5回 スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
- 第6回 スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
- 第7回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第8回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第9回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
- 第10回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
- 第11回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第12回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
- 第14回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 個々の学生に応じた課題について
- 第17回 個性ある演奏表現について学ぶ
- 第18回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
- 第19回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第22回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
- 第25回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
- 第27回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
- 第29回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名-クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第2回 音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
- 第3回 スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
- 第4回 スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
- 第5回 スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
- 第6回 スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
- 第7回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第8回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第9回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
- 第10回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
- 第11回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第12回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
- 第14回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 個々の学生に応じた課題について
- 第17回 個性ある演奏表現について学ぶ
- 第18回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
- 第19回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第22回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
- 第25回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
- 第27回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
- 第29回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	3～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品
第3回	民族的主義的な作曲家作品等
第4回	20世紀の作曲家作品
第5回	20世紀の作曲家作品等
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	3～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品
第3回	民族的主義的な作曲家作品等
第4回	20世紀の作曲家作品
第5回	20世紀の作曲家作品等
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	9	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	9	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

博士特別表現研究①

声乐

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	2	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って、声乐の分野の実践的研究を行う。実技のレッスンを主体としつつ、それに関連する歌唱法研究等を行う。年度末には当年度を総括する研究演奏による研究発表を行い、評価を受ける。

学修成果

修士課程までの研鑽の成果や個人の能力・資質に基づいて、きわめて高度な演奏技術の習得と向上を図ることができる。

授業展開と内容

第1回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (1) 1年間の計画の立案、研究対象楽曲の決定
第2回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (2) 研究対象楽曲①に関する声乐の見地からの考察
第3回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (3) 研究対象楽曲①に関する発声の問題点を上げる
第4回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (4) 研究対象楽曲①に関する発声を中心とした効果的な表現法
第5回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (5) 研究対象楽曲①に関する演奏解釈
第6回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (6) 研究対象楽曲①に関する演奏法研究
第7回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (7) 研究対象楽曲①に関する全体の曲分析
第8回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (8) 研究対象楽曲①に関する全体の演奏法
第9回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (9) 研究対象楽曲②に関する声乐の見地からの考察
第10回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (10) 研究対象楽曲②に関する発声の問題点を上げる
第11回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (11) 研究対象楽曲②に関する発声を中心とした効果的な表現法
第12回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (12) 研究対象楽曲②に関する演奏解釈
第13回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (13) 研究対象楽曲②に関する演奏法研究
第14回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (14) 研究対象楽曲②に関する全体の曲分析
第15回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (15) 研究対象楽曲②に関する全体の演奏法
第16回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (16) 研究対象楽曲③に関する発声を中心に取り上げる
第17回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (17) 研究対象楽曲③に関する声乐の見地からの考察
第18回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (18) 研究対象楽曲③に関する発声を中心とした効果的な表現法
第19回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (19) 研究対象楽曲③に関する演奏解釈
第20回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (20) 研究対象楽曲③に関する演奏研究
第21回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (21) 研究対象楽曲③に関する全体の曲分析
第22回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (22) 研究対象楽曲③に関する全体の演奏法
第23回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (23) 研究対象楽曲④に関する声乐の見地からの考察
第24回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (24) 研究対象楽曲④に関する発声の問題点を上げる
第25回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (25) 研究対象楽曲④に関する発声を中心とした効果的な表現法
第26回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (26) 研究対象楽曲④に関する演奏解釈
第27回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (27) 研究対象楽曲④に関する演奏法研究
第28回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (28) 研究対象楽曲④に関する全体の曲分析
第29回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (29) 研究対象楽曲④に関する全体の演奏法
第30回	個人レッスンを通した演奏法研究等 (30) 年次研究演奏発表に向けての仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。単に技術の向上のみならず、多角的な作品の追及を目指すという意識を持って履修すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業外の時間で個人練習の時間を確保し、十分な研究をしてレッスンに臨むこと。

教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

博士特別表現研究①

作曲

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	2		0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

1年次に開講する。「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って、作曲及び関連分野の実践的研究を行う。年度末には当年度を総括する研究作品提出を行い、評価を受ける。

学修成果

修士課程までの研鑽の成果や個人の能力・資質に基づいて、きわめて高度な作曲技術の修得と向上を図ることができる。

授業展開と内容

第1回	作曲構想の研究①導入
第2回	作曲構想の研究②実践
第3回	作曲構想の研究③まとめ
第4回	作曲構想に関わる資料の研究①導入
第5回	作曲構想に関わる資料の研究②実践とまとめ
第6回	作曲構想の原案の作成準備
第7回	作曲構想の原案の作成①導入
第8回	作曲構想の原案の作成②実践
第9回	楽器編成等の設定（オーケストラ、声楽等）
第10回	音楽形式、音素材の設定
第11回	作曲の実践①導入
第12回	作曲の実践②構想に基づいたスケッチ
第13回	作曲の実践③楽器編成等の設定に基づいたアレンジ
第14回	作曲の実践④スコア浄書またはメディア作成
第15回	まとめ
第16回	作曲構想の再検討
第17回	作曲構想の原案の修正
第18回	作曲した部分の再検討
第19回	作曲した部分の修正
第20回	再検討に基づく作曲の実践①導入
第21回	再検討に基づく作曲の実践②構想の検討
第22回	再検討に基づく作曲の実践③原案の修正
第23回	再検討に基づく作曲の実践④構想に基づいたスケッチ
第24回	再検討に基づく作曲の実践⑤スケッチの改善
第25回	再検討に基づく作曲の実践⑥楽器編成等の設定に基づいたアレンジ
第26回	再検討に基づく作曲の実践⑦アレンジの改善
第27回	再検討に基づく作曲の実践⑧スコア浄書またはメディア作成の導入
第28回	作品の楽譜等の作成
第29回	作品解説の作成
第30回	まとめと年次研究作品提出に向けての仕上げ

履修上の注意

毎回のレッスン以外でも常に担当教員と連絡をとり、研究の進捗状況を報告すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンで指導された内容を研究し、作曲に生かし、実践に励むこと。

■ 教科書・参考書

作曲の構想に関わる資料としてレッスン時に指示する。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：126 教員名：三谷 温

1) 評価結果に対する所見

レッスンに関しては、昨年度に続いて総合的満足度 Q10 が 100%の回答であった。しかし、昨年は 16 名の受講者数にうち回答数が 11 名であったのに対し、今年は 15 名のうち回答者数は 4 名と極端に少なかった（アンケートのインフォメーションをもっとするべきであったと反省している）。Q1「自分はこのレッスンのシラバスを読み、教育目標と学修成果を理解している」、Q2「レッスンはシラバスの内容に基づいて行われている」などの回答も「そう思う」が 100%であった。

ピアノ指導法特論・演奏解釈・演奏解釈法（受講者数 10 名のうち回答者数は 7 名）では、予習・復習を問う Q8 の回答において、「あまり思わない」との回答者が 3 名いたが、予習はさておき復習をするように今後指導したい。その他は概ね肯定的な回答となっていた（Q2、4、7において 1 名から「あまり思わない」の回答があった）。

「ピアノアンサンブル I ①」の総合的満足度 Q10 が、今回初めて「そう思う」が 100%の回答となった（受講者数 19 名のうち回答者数は 10 名）。「コロナ」が収束し歌手との共演が再開されたことも一因かもしれない。

2) 要件への対応・改善方策

レッスンにおける評価については、前述のとおり回答数が少ないので、今後レッスンの中でコミュニケーションを取り、学生の気持ちや意見をできるだけ汲み取るよう心がけたい。これまで同様、シラバスの内容、学習成果等については常に留意・点検し、個々の学生の特質を熟慮し、引き続き慎重にきめ細かく指導に取り組みたい。

アンサンブルの自由記述欄に「一対一で深く学びたい」という趣旨の記述があったが、他の学生の演奏を聴くということの意義について、丁寧な説明が必須であることをあらためて確認したい。

3) 今後の課題

近年、個々の学生の能力や気質、意欲の差が大きくなる傾向がある中では、特にクラス授業において、できるだけ等しく全ての学生の学修成果をあげるということは、やはり困難になってくる。セミスター制の導入へ向けて、科目の統廃合を検討する際に、能力別クラスの積極的設置などの検討が喫緊の課題であると思われる。

以 上